

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1274200219		
法人名	株式会社いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館白井		
所在地	千葉県白井市西白井3-14-9		
自己評価作成日	令和3年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.isshin.gr.jp/g_home/chiba/shiroi.html
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和3年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当たり前のことを当たり前に施設の常識にとらわれずに生活の常識を営んでいけるように支援しております。コロナ禍において、できるレクを企画し季節の風情を感じて頂ける機会をつくっております。また、利用者様の残存機能を維持できるように日常生活の中で、それぞれに合ったお手伝いや動作を行って頂いております。1日に1回でも多く笑って頂けるように利用者様とのコミュニケーションを大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の立場を尊重し、職員からのお声がけは自尊心を傷つけない表現を使うように工夫している。「一日一笑い」を合言葉に職員は毎日、利用者に笑ってもらうジョークを考えて出勤しており、大して面白くなくても大げさに笑ってくれるのはうれしい。ロビーにはエアロバイク・足漕ぎペダルの設置やトイレの誘導の際はできるだけ大回りをするなど、利用者の体力維持にも努めている。多くの利用者家族の要望にある、「安心して過ごしてもらいたい」との要望に応える為、毎月利用者様の様子を伝える写真付きのお便りを作成、郵送している。ネットを活用した家族との面談も予約をして頂き実行している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・施設理念を掲げ、朝礼時に唱和することで、全職員が理念を理解し意識を統一して業務に当たっています。	毎日の現場では、施設理念に込められた意味を職員相互に確認しながら福祉支援業務を行っている。職員間の風通しがよい職場を目指しており先輩職員や上司にも気軽に相談や確認ができる雰囲気がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍の為、町内会・イベントへの参加は控えております。また、地域のゴミ拾いも控えております。見守りネットワークのこども110番・高齢者110番は継続しております。	地域の共同ゴミ箱が隣接して設置されている為、当該施設で清掃や管理を継続して行っている。ご近所の住人からは感謝のお言葉をいただいております。時にはゴミ捨てのルールについてお話することもあり地域との繋がりのきっかけになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供110番・高齢者110番を引き受け、地域貢献に努めています。コロナ禍前は小・中学校の職場体験を受け入れ、認知症の方でも楽しく生活できる事を理解して頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍の為、2カ月に1度、運営推進会議の資料を市役所の高齢者福祉課と地域包括支援センターに提出しサービス状況の報告・相談を行っております。	運営推進会議資料を関係者各位に2か月ごとに直接持参している。資料内容は施設利用者の紹介や生活状況、毎月実施している季節催事の様子など、写真を含む伝わりやすい構成で作成している。行政関係からは、記載内容を介して運営に関する様々なアドバイスをいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在はコロナ禍の為、相談員やボランティアの受け入れは控えております。ですが、その分、電話での連絡・報告・相談は密に取り合い依然と変わらない協力関係を築けております。	介護保険関係などの相談は高齢者福祉課や地域包括支援センターの職員に相談している。介護事業所ワーキングの活動を通して10か所ほどの地域の他事業者と今後の介護に関わる問題について意見交換、情報共有を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事を職員全員が認知しております。見守り・目配りの強化をし、身体拘束のないケアをしております。また、どのようなことが身体拘束に当たるのかを、職員に周知させ、定期的に研修を行っております。	毎月のケアカンファレンスで、職員全員が指定基準禁止行為の理解度を深めている。加えて本社作成の教育プログラムを、ラインを使い各人のスケジュールに落とし込んで確実に受講できるよう個人ごとにチェックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎月のケアカンファレンスや日々の朝礼・夕礼等で、議題にし虐待防止を行っている。また、虐待防止の研修を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用意し、職員にも制度の理解をしてもらえるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、ご家族様に十分に納得して頂けるまで説明を行い、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行い、誰からでも意見が頂けるようにしています。また、日頃からご家族様と密に関わりを持つことで、ご意見ご要望は直接伝えてくださり、即解決に取り組んでいます。	苦情や要望を気軽に投函できるよう、施設玄関正面にご意見箱が置かれている。利用者の施設内での生活の様子を纏めた報告書では、カラー写真を添えてご家族宛に毎月郵送している。個々の身体能力に合わせた対応を行うため、電話でご家族とこまめな相談打ち合わせを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のケアカンファレンスにマネージャーが参加し、本部と現場の意見交換ができるようにし、少しでも働きやすい環境になるよう努力している。また、職員用の意見箱を設置し相談しやすいようになっている。	月1回のケアカンファレンスの開催に加え、本社マネージャーが年に1～2回、全職員と個別に面談を行っている。職員用の意見箱もあるが、普段顔を見ながら一言二言何気ない会話をすることで、働く仲間としての結束に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の役割を作り、やりがいを持って業務に取り組めるような環境を作ると同時に責任を持って取り組んでいます。職員同士も協力性をもって日々の業務に当たり、職場環境良好維持に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3か月に1度、社内研修を実施している。コロナ禍の為、WEB研修を取り入れています。また、外部研修にも受講できるように、費用は会社負担にて受講できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍の為、勉強会などへの参加は控えておりました。最近になり地域包括主催の介護事業所ワーキングへ参加し他事業者様や市役所の方と交流できる機会を得る事ができました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1体1で話せる機会を作りだしている。話された内容を記録しアセスメント様式にそって現状希望を把握し個別支援計画にを作成している。意思疎通困難な方は、バリデーションを活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、ご本人・ご家族様ともに困っている事等把握に努めている。また、利用者様の変化に伴い、連絡を密に取り、ご家族様の要望を踏まえて話し合いをし、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入居があっているか身体状況を見極め、何が必要なサービスなのかを早期に、家族様とも相談して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事、得意な事を職員全員が把握し、生活の中で利用者様にも役割を持って頂き、共に生活していると実感して頂けるよう努めています。また、昔ながらの習わしや料理法を教えて頂き、一緒に同じものを召し上がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナ禍の為、できておりませんが、館でのイベントの際にはご家族様にお手紙にてお知らせをし、気軽に参加して頂ける様に努めておりました。毎月写真付きのお手紙を送っており、何かあればご家族様に相談・連絡・報告を行い、本人様から電話もかけて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍の為、外出や直接の面会は控えています。WEB上での面会を取り入れ、ご家族様やご友人との関係維持に努めております。外部との接触は控えながら桜や紫陽花を観に行くドライブを行っている。	利用者と家族との直接の面談に替えて、オンラインの面談スケジュールを作成している。Google Duoのアプリケーションを活用して、順番にタブレットを介しての面談が実現できている。サクラや紫陽花の季節にはドライブに出かけるなど、従来の生活感を忘れないような工夫も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個人の個性や相性を考慮し、職員が間に入り、共に認め合い支え合えるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、館でのイベント等のお誘いを通し連絡する機会を作っています。コロナ禍の現在は控えております。相談や支援に関しては最大限の協力をさせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各個人との関わりの中で、声掛けし話を傾聴してご本人様の希望を見出し把握している。意思の疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得、その人らしい生活が送れるよう支援している。	入居間もない利用者は、職員にとって情報が少ない傾向にある。家族からの聞き取りを基に水分補給には冷たい飲み物を、お茶より水を好む、といった個人の好みの把握に努めている。また、激高して物を投げつける利用者がいたが、声掛けに注意して接し自分の好きにさせて欲しいという気持ちが強いことが分かり、根気よく丁寧な声掛けをする事で相手に納得してもらった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談でご家族様やご本人様とお話をさせて頂いた情報をもとに、その人らしい生活が送れる様にしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録を毎日記録し、現状把握を行っております。また、申し送りノートを活用し、より細かな部分まで把握できるように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意見を取り入れ、より良い生活が出来るように作成している。月1回のモニタリングとアセスメントを行い、意見やアイデアを出しながら介護計画を作成している。状態の変化があれば、その都度検討している。	家族からは本人が安心して楽しんで暮らせようという要望を受け、コミュニケーションを重視したケアプランの作成に注意を払った。ケアプランの見直しは半年に1回行うことになっており、カンファレンスの時間内に出席できる職員によって行われる。カンファレンスには、全職員が“事前配布資料”に必要事項を書き込むことになっており、欠席者を含め全職員の意見がケアプランに反映されていく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記入している生活記録を利用し、情報共有をしています。変化があった際には、職員全員にて今後の介護の検討を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様の希望に添えるような対応・支援を心掛けている。また、当事業所はグループホーム以外の関連施設もあるので、利用者様の身体状況に即した対応が可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌などを活用し地域の情報を取り入れ、利用者様が地域で暮らしていくことを楽しめるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、在宅診療にて診察を行っております。診察時には利用者様の細かな情報を伝え、適切な医療が受けられるようにしており、利用者様が安心して過ごせるように支援しております。	入居前からのかかりつけ医利用者は2名で、内訳はペースメーカー装着者と眼科医への通院となっている。コロナの影響もあり、医療に関しては提携先の往診医で一元管理することを家族にお願いしている。このことで、往診医といつでも連絡が取れる24時間対応が可能となっている。往診前に事前に医師に利用者の状況を”Dr. 質問”という書式に書き込んで提出しておき、事前に医師に各人の健康状況を把握してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の毎日の状態やバイタル測定で気づいた点は、看護師へ相談・申し送りし、情報の共有をし適切な看護ができるよう体制を整えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院やご家族様に連絡して利用者様の現状把握に努めています。また、面会が可能な時は面会にお伺いし直接会って現状把握に努めています。担当医・担当看護師と早期退院に向けての相談を行い情報交換を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明した上で、入居時の段階で、重度化・終末期の話し合いをしております。また、状態が変わった時には職員の意見も参考にし、ご家族様との話し合いの場を設けている。	重度化が進んできた場合は往診医と相談の上、医師より紹介状を出してもらい、しかるべき病院への入院の準備を家族と相談しながら行うようにしている。あるいは、医療サービスの整った特養への移転も考えられるため、近隣にある特養のパンフレットを取り寄せ家族と相談をしてどうしていくかを決めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に救命救急講習を受講し、的確に対応ができる様にしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災避難訓練を実施し避難方法などの災害時対応を確認しております。地域住民代表の方や民生委員様に避難訓練への参加をお願いしておりましたが、コロナの為、参加までは至っておりません。	防災訓練は年2回、8月と2月に計画されており、8月は実施済み。利用者も参加して1階は玄関の外へ、2階は非常階段、ベランダまでの避難が行われた。災害対策マニュアルが作成されており、マニュアルに沿った対応がされることになっている。現在、白井市よりBCPの策定に関する研修案内がきており、ホームとしてもこの研修に参加するようになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の性格・人格を把握し、その利用者様にあった言葉かけや声のトーン、姿勢に配慮し、利用者様の尊厳を大切に対応しています。	他人に聞かれることで本人を傷つけることのないように、耳もとでトーンを変えての声掛けに注意を払っている。また、相手に無理強いをするような声掛けでなく、本人が自ら行動を取れるよう心掛けている。例えば、「ちょっとお願いしたいことがあるんですけど」と話しかけることで、利用者に抵抗感を与えない”お願い”という形で接することを常に考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様・職員ともに、喜怒哀楽を共感することで信頼関係を築き、一人一人の感情を出せるように支援しております。決定が難しい場合には助言等を用いて自己決定ができるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日のご本人様の体調や気分に合わせて声かけや、サービスの提供をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援	身だしなみには、常に気遣いを持って対応しております。ご本人様に着たい服を選んで頂けるような声掛けをすることでおしゃれを楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや食べたい物を献立に取り入れながら、食事が楽しめるようにしております。また、テーブル拭きや下膳、食事前後の「いただきます」「ごちそうさまでした」の声かけをして頂き、生活感を感じて頂ける様にしています。	料理はホーム内部で作っており、毎月のおおまかな献立表に基づいて行っている。時には、チラシを見てこれが食べたいという利用者からの要望を取り入れて作ることもある。料理の準備や後片付け等自分で出来ることをしていただき、参画意識を持ってもらっている。本人にとっては、自分にも出来るのだという自信を持ってもらおうと同時に貢献意識も高まっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個人に合った食事形態・水分補給ができるように配慮しております。摂取量が誰でも把握できるように、毎日記録しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて、毎食後声掛け・介助を行っております。現在、コロナ禍の為、訪問歯科は控えており必要に応じて訪問歯科を利用しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、気持ちよくトイレで排泄できるよう支援しております。排泄意識がなくてもなるべくトイレに座って頂き、排泄できるよう支援しております。	排泄チェック表を使って、職員はトイレ誘導をするようにしている。なるべくトイレに座ってもらうことを習慣づけ、清潔感を保つことに努めている。また、トイレに座ることは、座る、立つという行動がとりまなおさず、腹筋・脚力の維持に繋がると考え健康管理の一面として捉えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の方には便秘が及ぼす原因や影響を理解し、予防に取り組んでいる。薬のみに頼るのではなく、食物繊維の多い献立にすることや、適度な運動などで改善できるようにしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間は決めておらず、その日の希望に沿って入浴して頂いております。	基本的には、昼食後の午後1時半から午後3時までの時間帯を入浴時間に当てている。無理強いの入浴をさせることをせず、自然と入浴に至る形を取るようにしている。例えば、利用者に手招きして「ちょっと一緒に行きましょう」と風呂場に導き、汗を拭き取りましょうか、と声掛けをし下着を脱いでもらい、ついでにお風呂に入るという自然な形で進んでいく工夫も試みられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に安眠して頂けるよう布団干しや換気を行い、休まる環境作りをしております。また、ソファやこたつを用いて休息できる環境作りをしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師と連携を図り、薬剤指導を2週間に1度設けております。利用者様の薬剤情報が常に把握できるように処方箋の管理を行い、服薬介助に当たっております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ごとの出来る事、出来ない事を見極め、役割支援を行っております。各個人の誕生日会を開催しお祝いしたり、季節ごとの行事を企画したりと、楽しみながら気分転換できるようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在のコロナの状況を考えて、3密を避けるようにして外出ドライブや玄関先での日光浴など外に出る機会をつくっている。散歩も気をつけながら行っている。	コロナの影響で外出もままならぬ状況下、外気に触れてもらうため近隣で咲く花を見にドライブすることも行われた。また、最近は外出が難しくなってきたおり、極力ホームの中で楽しめるレクリエーションを企画し皆で楽しんでもらっている。夏には、ホーム内で夏祭りを開催し、全員ゆかた姿で焼き鳥、焼きそばをほおばり、輪投げ、スイカ割りなどをして楽しい一日を過ごした。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や残存機能に応じて対応しております。管理が難しい方でも、買い物の支払いのみを行って頂ける様に支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があった際には自由に電話を使用して頂いております。番号が押せない場合等、職員がお手伝いをさせて頂きながら楽しまれております。手紙のやり取りは希望のある利用者様はできるように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、季節に合った飾り付けを心掛け、四季を感じて頂ける様にしております。利用者様が思い思いの場所で過ごせる空間作りをしています。	季節を感じてもらおうような行事をホームの中で開催している。例えば、10月はハロウィンの飾りつけ、12月であればクリスマスツリーの飾りつけ等利用者と職員が一緒になって共同作業を進めている。ホールの片隅にはソファを置いて好きな時に座ってもらよう、一日の生活を思い思いに暮らしてもらおう仕掛けづくりを皆で考え実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル用こたつの設置などで、利用者様が生活の中で自由に使用できる環境を作っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使い慣れた家具等をお持ち頂き、ご本人様らしい生活を過ごせるように工夫しております。	自宅にいたときの物が居室内にあることで、ここが自分の家だと思い安心感を与えている。使い慣れた物の持ち込みの中には、位牌や羽子板なども見られる。普段使っている布団は週1回必ず日干しをすることにしており、布団が温かく気持ちよくて寝やすいという声も聞こえてくる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーになっており必要な個所には手すりを設置しており、安全に生活できるようにしております。できる事は見守りし、安全に生活できるように支援しております。		